Seki Bridge Journal 第７７号

令和４年２月１５日

岐阜県立関高等学校

今回は「探ろう！岐阜の歴史」の事業報告です。

◇　岐阜の郷土史を学ぶ小中高生の発表交流会を開催しました！

主 催：　関高校・関市・関市観光協会 共催
日 時：　１２月１２日(日) １０：００～１５：３０
場 所：　せきてらす　関市平和通 4-12-1
発表内容

「船来山古墳群」	本巣市 子ども学芸員
「塚原遺跡と昔のくらし」	旭ヶ丘中学校
「関市の古墳」	安桜小学校
「歴史観光・夕雲の城ツアー」	関高等学校
「関ヶ原の合戦と国友の鉄砲」	鷺谷中学校
「小瀬鵜飼」　民俗編・自然科学編	関高等学校
※ポスター掲示参加	富加小学校

見学会（刀剣鍛錬）　　吉田研刀匠
座談会　橋本裕子先生（中部学院大学)、関係市町の文化財担当のみなさん

本巣市、岐阜市、富加町、関市に立地する小中学校から、郷土の歴史を探究している児童・生徒が集まり、発表交流会を行いました。それぞれの研究に関わった自治体職員や教職員の皆さん、歴史に関心のある市民の方々、保護者の方々、総勢５０名を越える参加者があり、発表会は盛況でした。コメンテーターには中部学院大学の橋本裕子先生（考古学）をお招きし、ひとつひとつの研究に対し、ていねいなコメントをいただきました。

発表作品の中には、「キッズ考古学新聞コンテスト」や「日本考古学協会総会高校生ポスターセッション」、「全国高校生歴史文化フォーラム」など、全国コンクール出展作品・受賞作品もあり、聞きごたえも見ごたえも十分でした。

参加者による発表のあとは、吉田研刀匠による日本刀鍛錬の実演及び体験、参加者全員による座談会もあり、世代・地域・立場を越えた幅広い交流会となりました。

小中高生交流イベント「探ろう！岐阜の歴史」は、次年度も実施予定です。

◇　発表者の皆さん、ボランティアの方の感想

＜旭丘中学校＞

発表を聞いたり、関鍛冶伝承館の方の話を聞いたりして、岐阜県には歴史のあるところがたくさんあるんだな、まだまだ知らないことがたくさんあるんだなと思いました。
私自身が、発表に向けて半年前に考古学新聞で調べたことをもう一度調べることで、関市の昔の姿を想像し考えるきっかけになり、深めることができたとてもいい機会でした。私たちは、岐阜県の中でも関市に絞って調べ、その中でも縄文時代と古墳時代を調べました。たった二つの時代の中にたくさんの遺跡があり、昔の人々の知恵を学びました。昔の人々も考え、自然の中のものを最大限に利用していました。私たちが暮らす現代では、リユースやリサイクルといった言葉をニュース等で耳にしますが、昔の人々は意識しないでとっくにやっていました。私たちも見習うべきだと思いました。

また、他の発表を聞いて岐阜県全体に目を向けてみたいと思いました。安桜小学校の子の発表や本巣市の子の発表を聞いて、まず陽徳寺裏山古墳や船来山古墳に行ってみたいと思いました。その他にも実際にいろいろな古墳を見に行きたいという気持ちが大きくなりました。高校生の話は難しいところもあったけれど、興味深い話ばかりでした。その中でも私は鵜の

研究に惹かれました。高校生になったら一緒にやりたいと思います。
　私は、なぜか古墳にとても惹かれていて、旧石器時代から古墳時代にもっと詳しくなりたいと今は思っていますが、飛鳥時代よりあとの時代にかかわる史跡が岐阜県にあるので調べてみると面白いのではないかと感じています。また、鷺谷中学校の発表にあった、人口密度と歴史の関係のように、違う視点から見て分析することにも挑戦したいと思いました。

（１年　上野結子）

　私は、発表会に参加して、さらに塚原遺跡や岐阜県の遺跡、旧石器時代から古墳時代のことについて学びを深めることができました。もともとは、考古学新聞コンクールへの参加で、インターネットからの情報や実際に塚原遺跡に行って、自分たちなりに調べて作りました。しかし、今回の発表で関市文化財保護センターの伊藤所長さんに話を聞きに行ったことで、新たな発見・疑問もたくさんできました。そして、疑問はさらに質問することでより深く学ぶことができました。そして、周りの大人の手も借りて、学んだことをより分かりやすく伝える方法も知り、共有することができたこともよかったと思います。
　次に、他の人の発表を聞いて思ったことです。それぞれ違った発表で、知らないこともたくさんあり、ワクワクしました。発表しているものへの愛や思いが伝わりすごいと思いました。中でも高校生はとてもレベルが高く、自分が考えもつかないようなことを考えていたり、真似できないような実験・発表をしていてすごいと思いました。
　最後に、これからのことについてです。私は、今回古墳について、伊藤所長さんに聞いたり自分たちで調べたりすることで、関市の古墳や昔のくらしを学び深めることができました。そして、発表を聞いたときに、自分の好きなもの、興味のわいたものについてたくさん調べて、愛がみちあふれる発表をしている人がたくさんいてすごいと思いました。高校生のレベルの高い発表にはとても感動しました。だから、私はこれから、好きだと思うこと、興味がわくことを見つけたらどんどん調べて、周りの人に聞いて探究し、学びを深めていきたいです。そして、また、発表の機会があったら、あの高校生のみなさんのような、自分の考え、自分の思いがたくさん相手に伝わる発表ができるようになりたいです。

（１年　瀧内望花）

＜安桜小学校＞
　ぼくは古墳が大好きです。ぼくは小学校２年生から古墳が好きになりました。ぼくが住んでいる関市には、約３００きの古墳があります。
　今回はかってにランキングをつけてみました。第５位は陽徳寺裏山古墳群です。理由は、今、関市で見つかっている古墳の中で、一番古く「角はい」というめずらしいものが出てきたからです。陽徳寺裏山古墳群の場所は、関市千疋にあって、形はほ立貝式古墳（１号墳）です。見つかっている５号墳が４世紀後半です。
　第４位は塚原古墳群です。てんぼう台から見ると、とてもきれいで、昔の風景が分かるからです。塚原古墳群は、場所は関市千疋にあり、形は円墳で６世紀後半につくられました。
　第３位は、落洞古墳です。３位の理由は、去年の夏休みに初めて関市文化財保護センターの森島先生と古墳の中

に入り、一番奥にあったかがみ石という大きな石がピカピカで、とてもかっこよかったからです。落洞古墳は、関市武芸川町にあり、形は円墳で大きさ９・１ｍ、つくられたのは７世紀前半です。

第２位は、池尻大塚古墳です。理由は、石が見えていて面白いし、池尻大塚古墳の中から、鉄地金ばりかざり金具というのが出てきたからです。何のかざりなのか不明で、まだぼくは、本物をみた事がないので、いつかみてみたいと思います。池尻大塚古墳は、関市池尻にあり、形は方墳で大きさは１０．２９ｍで、年代は７世紀前半です。

いよいよ第１位です。片山西塚古墳です。１位の理由は、関市でゆいーの前方後円墳で、どうしてここだけしか前方後円墳が見つかっていないのかが不思議だからです。片山西塚古墳は、関市小瀬にあり、形は前方後円墳で、全長２２．３m、つくられたのは５世紀です。

関市には、古墳を調べたら昔から人が住んでいることが分かりました。そして、古墳づくりにはかっこよく見せるために色んな工夫がしてあったり、近くには川があったり、古墳のルールが色々とあって面白いです。

「探ろう！岐阜の歴史」の発表会では、ぼくの好きな古墳のことを色んな人に聞いてもらえて、とても緊張したけれど、うれしかったです。高校生や中学生のお兄さん、お姉さんのお話や、他の市の古墳の勉強をしている小学生の話を聞けてうれしかったし、ほかの歴史も知ることができて楽しかったです。これからも大好きな古墳のことをどんどん調べていきたいと思います。　　（４年　古田藍乃介）

参考資料：「関市発掘調査展２０２０」「落洞１号古墳発掘調査現地調査説明会資料」
「武芸川町史」「関市古墳を歩こう資料」

協力していただいた人：　関市文化財保護センター森島先生、センターの先生方、ぼくの家族

＜本巣市 子ども学芸員の皆さん＞

ぼくは、今回の「探ろう！岐阜の歴史」に参加して、他の人の発表から、色々な考えを持つことが出来ました。長良川では、縄文時代から現在まで漁が続いていて、米作りの水としても使われていたので、本巣の川と船来山の関連について調べたいと思いました。猿啄城などを、関高校の方のドローンで撮影する方法を、船来山の行きにくい古墳で使用すると面白いと思いました。

歴史が好きな人の集会に参加して、ぼく以外にも古墳が好きな人がいると実感できました。また考古学専門の先生のお話も聞けて、とても楽しく将来の目標が持てる一日になりました。　　（真桑小６年　菊地政吾）

自分の書いた新聞のことを発表したことで、いろいろな人に知ってもらえたので良かったです。また他の人の発表も聞けて勉強になりました。今後の船来山では、もっといろいろな人に船来山古墳群を知ってもらえるように様々な活動を通して参加していきたいです。　　（真桑小６年　西康輔）

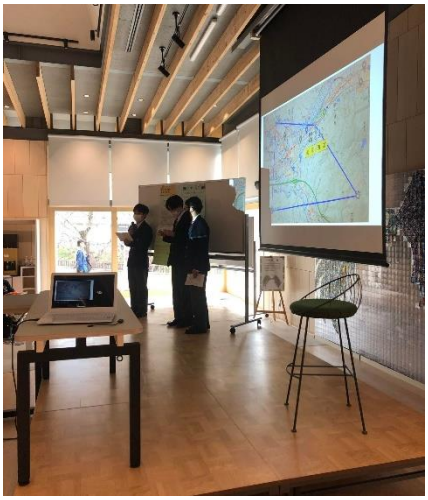
今回の発表で、あまり知られていない船来山古墳群の魅力やすごさについて、簡潔に伝えることができたので良かったです。このような発表や他のＰＲ活動などで、船来山古墳群の魅力やすごさをより多くの人に知ってもらいたいです。また、本巣市の人だけでなく誰でも知っている古墳群になって、みんなで協力して守っていけるようになってほしいと思います。
（糸貫中１年　関口ゆの香）

関ヶ原の戦いの人数に関する疑問点を現地に行ってまで、仮説を立てていた事には驚いた。自分も疑問に思ったら、しっかり調べたいと思う。他校との交流は刺激があって良かったで

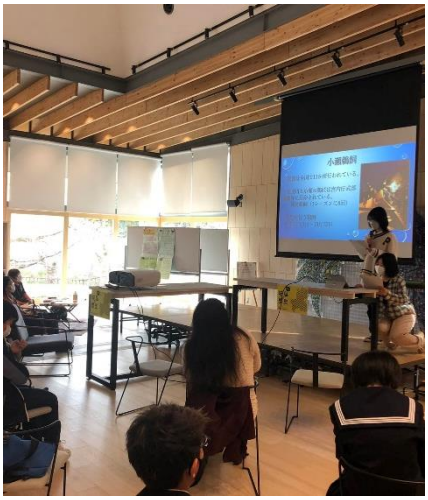
す。
　また、関市を中心として史跡と自然をめぐるツアーを考えたり、実際にいけなくてもリモートでやったりと挑戦していていいと思いました。船来山は、公園にしてそこで古墳の事を知ってもらえばいいと思います。　　（真正中２年　関谷颯太）

　小中高校生が連携した素晴らしい会に参加させていただきありがとうございました。
　会場のみんなが一つになって、発表を真剣に聞き入っていました。発表者は、それぞれ個人・グループで、興味をもったこと不思議に思ったこと、調べて新たに発見したことなど自分の言葉でまとめていました。児童生徒の発想は素晴らしいと感心しました。発表を聞いている子ども達は、同学年や先輩達の発表から刺激を受け、今の研究をさらに深めたり、新たな課題に取り組もうとしたりするだろうと楽しみになりました。
　林先生の進行も素晴らしく、発表後に、その研究内容に関わっている方々（先生、親さん、地域の広報課の方、作家さん、学芸員の先生）など幅広く会の中へ誘い込まれ、たくさんのグループの発表があったのに、あっという間に楽しく終わりました。参加した私たちは、子どもたちが今後も地元愛にあふれ、地域づくりに大きな役割を果たしてくれるだろうと、期待をもちました。
　また来年も、このような会が開催されたら参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました。
追伸（定年まで教職についていて感じたことから一言）
　小中学校で夏休みの研究で児童生徒が「歴史」について取り組んできても、市の作品展に代表として出品するだけで、紙切れ１枚の賞状、クラスでの発表止まり。他の人達・地域の方々にも知らせる方法があるといいのにと思いながらいました。そんな中、このような発表の場もあるということは、素晴らしいと思いました。
　船来山古墳群では、恩田さんがふるさとロマンプロジェクトと称して、学校教育では体験できない内容を用意してくださいます。他地域の古墳を見学したり、船来山古墳群の中で「自分の押し墳」を決め調べ、現地でみんなの前で発表したり、市の広報誌にその子達の発表の記事を載せたりと、少しずつ地域に向けて働きかけが進んでいます。それがやがて「関」で開催されたように、地域で船来山について考え「歴史でまちづくり」のとりくみが進めていけると良いと思っています。
　林先生はじめ、各地の学芸員の先生方の連携も素晴らしいと思いました。本当にありがとうございました。※「素晴らしい」の言葉を何度も使ってしまいました。
（船来山古墳群ボランティア　中島栄子）

　私は関ケ原町・垂井町・長浜市を探索しました。そこでは地元の人しか知らなさそうな事や、そこに行ってこそわかることなどが多々ありました。
　関ヶ原の合戦地では、たくさんの丘や山があり、これらに実際登ってみて、色々な視点から戦場を見渡すことで各武将たちの心理や作戦が見て取れました。小早川秀秋の裏切りが勝因だと言われていますが、他にも勝因があると思います。
　一つは竹中重門と黒田長政です。竹中氏は垂井を本拠地として地元の地形に詳しく、また黒田長政が少年時代に竹中氏にかくまわれていたことから、おそらく長政も垂井や関ヶ原の地形を覚えていたと思います。地元の地形に詳しかったからこそ、戦場が一望できる場所(岡山)に烽火場を築くなど、合戦を有利に進めました。
　二つ目は、国友の鉄砲です。家康は、合戦前にいち早く三成よりも前に大量の鉄砲を注文しました。これが東



軍を一層有利にしたと思います。
　関ヶ原の合戦は、とても奥の深い戦いだったと思いました。今後は他の方々のように古墳も研究してみたいです。そして、今回の経験を活かし、新たな発見をしてみたいです。
（鶯谷中学校１年　兼松知輝）



　今回のイベントでは、地域の歴史を研究する小・中学生の皆さんとの交流で「このような視点があるのか」と様々なことを学ぶことができました。また専門家の方のお話しを伺って研究の方針の立て方や発表をする際の表現の仕方など細かい所の指摘を受け貴重な時間を過ごせたなと感じました。
　私たちの研究はまだ始めたばかりで、鵜飼を民俗学の視点で調査する際の意味や目的がきっちりと定まっていない面がありました。そのため、これからの研究では民俗学をより広い視点で見ることと深く内容の濃いものにすることを目標とし、一体感のある研究に仕上げていきたいです。　（関高等学校２年　藤村彩須果）

　いつも高校生の発表を聞いている自分たちが、小学生・中学生の発表を聞いて、勝手に自分の小中学生の頃と比べ、みんなすごいと思いながら聞いていました。
　旭ヶ丘中学高校の発表の中で、自分の身長を基準として古墳の高さを測っていて、後からそれが学術的に正しいということが分かって面白かったです。 鶯谷中学校の発表では、関ヶ原の戦いでの矛盾点を人口密度という観点から示していて、とても興味深かったです。子ども学芸員の活動に関しては、船来山古墳群の広報活動の方法を考えるにあたって、私たちのツアー提案が何か良いヒントになったのであればうれしく思います。私たちの「夕雲の城ツアー」の活動は、今回のイベントを弾みに、これからさらにブラッシュアップを目指します。
　今回のイベントでは様々な年齢の、様々な発表を聞き専門家の方のお話を伺うことができました。とても楽しく、貴重な時間を過ごせたと思います。来年またこのようなイベントが開催されたら参加したいと思います。　（関高等学校２年　河路康太）

◇　橋本裕子先生からのコメント

　午前の部では小学校から高等学校までの児童・生徒等による研究発表が行われた。口頭発表は６演題、ポスターによる発表が１演題の合計７つの発表があり、各研究発表に関するコメントは以下のとおりである。
　いずれの発表も出身地や学校周辺の歴史や民俗を大事に思い、更に興味を掘り下げる研究が多く、地元愛を感じる内容であった。また小学生と中学生の発表は、全てkid's考古学研究所主催の新聞コンクールの２０２０年度、２０２１年度の最優秀賞、優秀賞、最終選考作品となった発表者によるもので、遺跡への興味や愛情、知への欲求が感じられる発表であった。高校生は専門的な学会での発表・入賞や地域振興とのコラボレーション研究などがあり、より専門性の高い発表であった。

各発表へのコメント
１「関市の遺跡から考える～塚原遺跡と昔のくらし～」　旭ヶ丘中学校
　岐阜県関市に所在する塚原遺跡をベースに古代の暮らしや生活基盤について良く調べられている研究発表であった。特に縄文時代から弥生時代、古墳時代と時代を経るにしたがって、市内の遺跡の分布様子が変わり、狩猟採集の生活に適した生活場所と稲作を行うための定住生活の場所とが明確に異なる様子を比較して、視覚的に分かり易く説明した点は評価できる。

また塚原遺跡は復元住居など遺跡が公園として保存されており、史跡内に所在する古墳についてはその大きさを、自分たちをスケールに撮影するなど研究者も行う手法でプレゼンすることができていた。発表者の女性の身長が１５０㎝で自身をスケールとしていた。古墳時代の女性の平均身長が１５２㎝であるため、偶然ではあるが古墳と人物との比較が完全に古墳時代相当のスケールとなったことは非常に良いスケール選びであった。また「わからないことがあるからこそ、様々なことを考えることができ、それを研究することが楽しい」という最後のまとめは、研究の本質といってよいもので、発表者の将来が楽しみと感じたものであった。

２「船来山古墳群」　本巣市 子ども学芸員
　岐阜県本巣市に所在する国指定史跡の船来山古墳群について、本巣市が主催する小学生・中学生の子ども学芸員たち総勢８人、他にボランティア・スタッフと本巣市の文化財担当者によるパワフルな発表であった。古墳群は今後支群の一つを史跡公園として復元・活用することが決まっており、船来山古墳群と将来の史跡活用が観光の一つとなる可能性など多岐にわたる内容であった。学芸員やスタッフ全員が、多くの人に船来山古墳群を見てもらいたいという意識が高い。また定期的に古墳群の清掃などを行うことで、遺跡そのものに直接的・継続的に触れる機会が多く、子供たちや地域の人たちが船来山古墳群を大事に思い誇りに感じている様子が伝わる発表であった。現在はまだ遺跡全体が整備中で部分的にしか立ち入りができないが、令和７年に完成する古墳公園をはじめ、東西約２キロに及ぶ独立した山である船来山全体を歩けるようになった時が楽しみである発表であった。

３「ぼくの好きな関市の古墳～僕のおすすめ古墳ランキング～」 安桜小学校
　発表者の最年少、且つ唯一の個人発表だったこの発表は、古墳愛溢れることがよくわかるもので、発表者全員の中で最も大きな声で堂々とした発表であった。発表の際に自作のポスターと前方後円墳を張り付けた自作の指示棒を手に、関市に所在する約３００基のうち、発表者が選んだお勧め古墳トップ５について報告された。大好きな古墳について話をできることが嬉しいという雰囲気が会場全体に伝わり、皆を笑顔にする発表だった。ランキングに登場した古墳は実際に発表者が訪れた古墳の中から選んでおり、自分で作成したポスターには「古墳の年表」や「古墳地図」が示され、現地に行ったからこそ書くことができる平面図や実測図、葺石の様子が詳細に描かれていた。説明に用いたポスターは、タイトル部分には関市に所在する古墳の墳形を使った縁取りを使用するなど、アイデア満載のポスターであった。今後は関市だけでなく周囲の市町村の古墳にも行ってみたいと発表が締めくくられたので、「僕の好きな岐阜県の古墳」のお勧め古墳ランキングが近い将来発表となるのが楽しみである。今回の発表を機に、古墳好きの同世代や研究者と知り合うことができ、古墳愛は更に深まりそうで、今後が楽しみである。

４「歴史観光・夕雲の城ツアー」　関高等学校
　地域とのコラボレーション企画で、戦国の史跡をめぐるツアー。自治体や企業、ＮＰＯの協力を得ながら歴史ツアーへとつながるものであった。織田信長の城攻めと同じルートを巡るプランで、山城を登り、ラフティングボートで川から城を仰ぎ見るなどの魅力的なツアー。歴史ツアーは年齢層が高いことが多いことなどから現実的でないとの企業側からの指摘に、オンラインシステムを利用した、ズームでの視聴型ツアーという新しい提案。全体的によく練られており実現可能のようだ。ただ、体験することに重点が置かれていたのは気になった。映像で該当場所の臨場感を見せることに意識が集中し、城や陣が置かれた場所の標高や距離などの数字が示されないために、実際の高さや距離感の想像が難しい。映像に実際の数字や距離がインサートで示されるなど、見る側に大切な情報を盛り込むことが必要に思えた。更に、歴史書に記載された事項を体験できるように、史実として分かっているタイムテーブルに沿った時間の情景を示すために、その時間の状況写真などがインサートされたりすると更に良いと感じた。城攻めの開始時間、終了時間など、刻々と変わる時間の流れを体感できる

方が、より満足度は高くなりそうである。当時の携帯食などが、ランチの一部として提供されても面白いであろう。特に実際の城攻めを終えた時間は非常に遅く、陽が落ちて真っ暗な状況であったことが分かっている。時々刻々と移り変わるタイム・スケールが体験できるとドキドキワクワクが増すのではないかと思う。更に良いプランへとブラッシュアップが可能な研究発表であった。

５「国友の鉄砲と関ヶ原合戦」　鶯谷中学校
　誰もが知る「関ヶ原の戦い」について、東軍・西軍のそれぞれに残る戦力や合戦に投入された動員兵力への疑問を指摘。それぞれの武将の陣の総面積に対し、記録に残る各陣の兵力と動員人数を配置してみると、配置される個々の距離は最大８ｍ四方で明らかに密集しすぎると判断でき、実際の動員数を上乗せして記録に残した可能性を推測した。また、竹中や黒田など幼少期に過ごした地元を知る地の利の可能性から、勝敗を分ける何かがあった可能性の指摘と、わずかながらも合戦の帰趨を制する可能性に迫る推測を提示した。実際に関ヶ原古戦場でのフィールドワークに基づく知見は斬新なものだった。今後、各武将の陣の平地面積だけでなく傾斜部分の布陣、騎馬隊と歩兵、槍隊など実際の動員数が分かる記録からそれぞれに必要な距離、明らかに無理がある距離がどの程度算出できるかを分析したうえで、各武将の陣の配置の様子を再現できると、記録の上で数をどれだけ上乗せしたのか、また正直に記録した武将がいるのかなど、新知見が得られそうな研究であった。

６「尾瀬鵜飼～民俗編・自然科学編～」
　取り組み始めたばかりの研究で何をすればよいのか、今後の方針を示す発表と共に鵜の個体観察から飼育下の鵜の社会構造の途中経過の発表であった。民俗学編では鵜飼の歴史をベースに今後調べる項目が示され、将来性ある研究の可能性を感じることができた。自然科学編では、尾瀬鵜飼の鵜匠である足立家で飼育下にある鵜の個体及び個体間観察を行い、霊長類の観察手法を用いて苦労しつつも個体識別に成功。鵜飼時にペアとなる個体間の関係について観察をした。常に仲良し同士がペアというわけではなく、関係性は良くないものの仕事上のペアとなり、鮎漁での成果を挙げることができるというペアも確認でき、多様な社会構造を持つことを確認。継続の観察と調査が計画されており、仲良しペアと仕事上のペアの、鮎漁の成果がどれだけ差があるかなどについても数で示されるようになると面白くなりそうである。ただ、霊長類の手法で社会構造を研究する際は、個体間や親子関係の系譜を含めた世代間の社会を観察することが多い。それに対し鵜は飼育下で繁殖した鵜ではなく、野生の鵜を捕獲して補充していくため、血縁的な社会構造を見ていくことはできない。新しく仲間入りする鵜との関係や、鮎漁におけるペアの在り方と効率などから分かる社会構造の研究となる。観察対象の鵜の「社会構造」という枠組みをどのようにとらえるかをしっかり定義したうえで観察がなされれば、海鵜の認知能力、社会関係、伝統漁法といった学際的な研究になっていく可能性を感じさせるものであった。

７　ポスター発表：富加小学校
　富加町の歴史について町の文化財担当職員による定期的な小学校への出張講義があるため、小学校全体が町の歴史についてよく理解している。受講した児童の理解度がよく分かるポスターとなっていた。正倉院に保存されている日本最古の戸籍となる「大宝二年御野国加毛郡半布里戸籍」は、富加町の羽生という地名が、その名残であると考えられていることから、富加町の歴史と共にあるといってよい。半布里戸籍について、一人一人がその意味や特徴をよく理解し自分の言葉でまとめられていた。戸籍からは逃亡や納税に関して共同責任があることなどが読み取れ、現在の生年月日や両親などが分かるだけの戸籍にくらべると、当時の戸の分類法や決まり事などがわかり、戸籍から得られる情報量が多いことなどがわかるため、町の宝として半布里戸籍を意識している様子がよく分かるポスターが多かった。今後も多くの人に町の歴史遺産を学ぶ機会を提供し続けてほしいと感じるポスター集であった。

最後に

午後の最後に、総合討論のような形で発表者と専門家や文化財担当職員との対話が行われた。私からの総合コメントとして、今回の開催主題として「探ろう！岐阜の歴史」なのに対し、全ての発表には遺跡などのピンポイントの地図しか示されず、岐阜県のどの位置に所在するのかという広域地図がなかった点を指摘した。今回は地域をよく知る人たちへの発表ではあったが、いずれの発表も我が町の遺跡を見に来てほしいという願いを持つ発表であったため、岐阜県のどの位置にあるのか、またアクセス方法などの情報が盛り込まれれば、観光で訪れる人にも遺跡の所在する地域に住む人にも「実際に行ってみよう」という気にさせられるのではないかと意見した。

学生の頃に考古学を研究し、卒業後もそれを職業にしているという人は、考古学専攻生全体の数からすると多くはない。そのため、どの地域に行っても文化財担当職員や大学教員は年齢が多少離れていても知人であることが多い。知り合いではなくとも、お互いの名前を聞いたことや、研究論文を読んだことがあるということが殆どである。今回、大学に籍を置く私と会場となった関市をはじめ周辺地域の文化財担当職員は、学生の頃からの友人や研究や学会を通して知り合い、１０年以上の付き合いになるもの同士が多かった。発表した児童や学生たちと同じように、歴史好き、遺跡好きの集まりが大人になっても継続しているという友人関係で、恐らく今後も一生の付き合いとなると信じる友となっている。今回、発表した児童や生徒たち全てが考古学に関係する職業につくかはまだわからないが、今日この場で出会ったそれぞれが、歴史好きの仲間として一生の友との出会いの日になったのなら幸いである。

今後もこのような会が継続して開催されることを望みたい。

◇　指導に当たった文化財担当の方、先生からのコメント

船来山古墳群は、平成３１年２月に国史跡となった東海地方最大級の古墳群です。古墳群としての価値は早くからいわれていましたが、ゴルフ場開発が契機で発掘調査がされた歴史があり、私が入庁した当初は様々な風評がありました。こども学芸員を募集し、大人だけでなく児童生徒と保護者を巻き込んだ年間講座を開催するようになってからは、徐々に風評被害も減り、少しずつ遺跡や文化財への理解が見られるようになってきたのではないかと思います。そして、船来山古墳群を「本巣市の宝物」と言ってくれる市民が増えました。

今回このような機会をいただき、自分で考えて自分の言葉で大勢の前で発表したり、ほかの小中学校や高校の発表を聞いたことで、参加者も大きく世界が広がったと思います。また担当者の私自身も、今後の取り組みへの様々なヒントをいただき、世界が大きく広がりました。他校との交流は、自分のまちを見つめ直し、自分自身をふり返る良いきっかけになると思います。そしてこうした活動が、市外の人や県外の人へ船来山古墳群をアピールする際に、大いに役立つと思います。船来山古墳群は、多くの人が訪れることを願って、現在整備基本計画策定を進めています。学んだことを将来の船来山古墳群への取り組みに活かし、今後もこのような機会があれば参加していきたいです。　　（本巣市教育委員会社会教育課　恩田知美）

日頃から歴史探究に熱心に活動しておられる小中学生そして高校生のみなさんが一同に会して研究を発表する「探ろう！岐阜の歴史」は、聴講した皆さんに様々な感動をもたらしたと思います。高校生の皆さんの発表は、歴史事象の整理だけでなく自分なりの解釈や提案まで深めていてさすがでしたね。また皆さんフィールドワークを大切にしている点には感心し

ました。「現場百回」ではないですが、現地や実物を自分の目で見て考える事はとても大切です。ぜひ続けてください。

小中学生の皆さんは、自分たちのすぐ近くにある歴史資料への率直な疑問や驚き、大事さを伝えたいという熱い気持ちをとても素直に表現をしてくれて、皆さんのワクワクやドキドキが私たちにも伝わって思わず笑みがこぼれてしまいました。私もそうだったなあと数十年前を思い出しました。歴史の道を志す者の原点を確認させてもらった気がします。

現代を生きる私たちの周りには、過去を生きた人々の無数の痕跡が残っていて、神社や仏閣など目に見えるものだけでなく、時には土の中に埋まっている未発見の遺跡だったり、口伝えの伝承や伝統芸能のように形をもたないものなど様々です。ただひっそりと地域に残ってきて、気づかないだけで私たちの暮らしの中に存在しているのです。こうした歴史資料に目を向けて大切さに気づいた時、過去と私の繋がりにハッと感動し、歴史の中の私たちを考えるようになるのではないでしょうか。そして、その資料を残した地域の素晴らしさにも気付き、それが愛情や愛着に変わっていくのだと思います。発表してくださった皆さんはもうすでにその感動を味わっていることでしょう。その感覚を大人になっても大切にして欲しいと思いました。　　（富加町教育委員会文化財専門官　島田崇正）

小学生・中学生が疑問に思うところの視点の勉強になりました。はじめの旭ヶ丘中学校の子の発表で、おしゃれ、化粧などの視点で縄文時代の話を現代まで繋げるところなど、私にとっては新鮮でした。今後、小学生・中学生を遺跡に案内する際の参考になりました。

古田藍乃介くんが堂々と発表してくれたのが、うれしかったです。これからは、教えすぎないようにサポートしていきたいと思います。

関高の発表はさすがだなと。鵜飼は生態系の調査と民俗学的な調査が上手く融合できれば面白くなると思いました。鵜匠が持つ知識・感覚と生態学からみた鵜同士の関係性などが経験則だけではなく、科学的に結びつくとより研究する意味もましてくるのではないかと思いました。なかなか市の調査でできなかったところなので、期待しています。

コロナ禍であるためなかなか難しい面があると思いますが、横の繋がりが持てる場がもう少しあればよかったのかなと思いました。情報交換などをして、お互いがお互いのエリア案内できるようになればいいと思いました。　　（関市文化財保護センター　森島一貴）

小学生、中学生、高校生が地元を語るこのようなイベント、大会に参加するのは初めてです。開催していただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。興味、関心を持ち、疑問を抱き、自分で調べてまとめ、発表する。基本中の基本ですが、現状は受け身になり考え表現することが苦手な生徒が多いような気がします。今回発表された生徒さんをみて頼もしく思いました。遺跡や古戦場は、大きく、より多くの子供たちを引きつけるのでしょう。岐阜県にはたくさんの史跡があります。

「あるある」「なにこれ」の観点で多くの発見に期待します。

（鶯谷中学・高等学校地歴サークル部顧問　木村稔）